

◆ 研究部の人事異動

◆ 研究部教員の着任(8月1日付)

鈴木英明(すずき ひであき)がグローバル現象研究部の助教として着任しました。専門は歴史学。アフリカ大陸東部沿岸を中心としたインド洋海域史、とりわけ19世紀の奴隷交易を中心に研究してきました。最近では、世界史にも関心を広げ、奴隷廃止を世界史的共通体験としてとらえ、そこから世界史を考えようともしています。

◆ 受賞

齋藤晃教授「大同生命地域研究奨励賞」受賞(2018年7月20日)

◆ シンポジウム等

◆ 特別展示「中国の鸚鵡—卯田宗平フォトコレクションから」

会期：2018年9月5日(水)～11月5日(月)

場所：長良川うかいミュージアム

◆ 国際シンポジウム「フィジー諸語と地理情報システム、および博物館展示への応用」

日時：2018年9月20日(木)

場所：国立民族学博物館

後援：日本言語学会、日本歴史言語学会、日本オセアニア学会

◆ 特別展「国立民族学博物館コレクション ビーズ—つなぐ・かざる・みせる Beads in the World」

会期：2018年9月22日(土)～11月25日(日)

場所：岡山市立オリエント美術館

◆ 国際シンポジウム「ミュージアムの未来—人類学的パースペクティブ」

日時：2018年9月28日(金)

場所：グランフロント大阪

企画：NIHU基幹研究プロジェクト機関拠点型「人類の文化資源に関するフォーラム型情報ミュージアムの構築」、学術資源研究開発センター

◆ 平成30年度みんなく若手研究者奨励セミナー「時空間を超える知識の共有—タテにつながる、ヨコにつながる」

日時：2018年11月8日(木)～9日(金)

場所：国立民族学博物館

◆ 刊行物

『社会主义制度下的中国饮食文化与日常生活』(SER144)

河合洋尚・刘征宇編、2018年2月、国立民族学博物館。

『肉食行為の研究』

野林厚志編、2018年3月、平凡社。

『展覧会の研究「ラテンアメリカの音楽と楽器」展アンケート調査を中心として』(SER145)

山本紀夫著、2018年3月、国立民族学博物館。

『人類学視野下的歴史、文化と博物館—当代日本和中国的理論実践』(SES No.97)

韓敏・色音編、2018年3月、国立民族学博物館。

Let's Talk about Trees: Genetic Relationships of Languages and Their Phylogenetic Representation (SES No.98).

Ritsuko Kikusawa and Lawrence A. Reid (eds.), Mar. 2018, National Museum of Ethnology.

Satawalese Cultural Dictionary(SER146).

Sabino Sauchomal, Tomoya Akimichi, Shuzo Ishimori, Ken'ichi Sudo, Hiroshi Sugita, and Ritsuko Kikusawa (comp.) Lawrence A. Reid (ed.), Mar. 2018, National Museum of Ethnology.

『東南アジアのポピュラーカルチャー—アイデンティティ・国家・グローバル化』

福岡まどか・福岡正太編、2018年3月、スタイルノート。

『海民の移動誌—西太平洋のネットワーク社会』

小野林太郎・長津一史・印東道子編、2018年3月、昭和堂。